

「再、ニイハオ！」

中国一人旅

その2

東北部・北京など編

10月11日(水)13時、

下関からフェリーで、青島へ

10月20日(金)13時、

ハルピンから空路、北京へ

中国一人旅 その2 (東北部・北京)編

2週間7都市

目次

1	行く前に	165	22	次は「偽満皇宮」へ	193
2	さあ行くか!	166	23	溥儀の憂鬱	194
3	船旅仲間	167	24	一時の夢	195
4	青島(チンタオ)の夜	168	25	運のいい朝	196
5	火車で烟台(イエнтаイ)へ	169	26	長春動植物園のトラ	198
6	烟台に九十分	170	27	セブンブリッジの遊び方	200
7	黄海6時間の旅	171	28	ハルピンの洗浴	201
8	大連のバイキング料理	172	29	北京行き航空券	202
9	大連森林動物園へ	173	30	「東北烈士記念館」見た	204
10	パンダとトラはどこだ	175	31	七三二て何?	205
11	中学生がなすべき50の事	177	32	日本の恥部	206
12	招待所のシャワー	177	33	憧れの松花江	208
13	沈陽故宮博物院ね	179	34	ハルピン空港へ	210
14	2元のところを20元出せ	180	35	北京には着いたが	211
15	九・一八事変博物館へ	181	36	風邪で二日寝る	212
16	日中友好の原点は	183	37	宿替えだ	213
17	北陵(ペイリン)へ	184	38	天壇はいいね	215
18	最奥の壁の秘密	186	39	天安門広場、ひろく	216
19	安いが嫌な宿	187	40	天安門くぐって故宮へ	218
20	「地質宮」前にて	189	41	皇帝の絶大なる力「紫禁城」	219
21	いよいよ「偽満州国務院」へ	191	42	天地・陰陽・乾と坤	221
			43	五百年を一日で	222
			44	早朝の天安門広場	223
			45	あと80元出せ	224
			46	「万里の長城」登った、見た	225



5 2	ウミの親と子	2 3 2	5 8	旅の短歌再掲	2 3 9
5 1	立派な名前の中身	2 3 0	5 7	旅を終えて	2 3 8
5 0	青島への航空券	2 3 0	5 6	乙女8人熊本へ	2 3 7
4 9	予感的中	2 2 8	5 5	復路、無事出港	2 3 6
4 8	昭陵の柿	2 2 7	5 4	「康有為」どんな人	2 3 5
4 7	悪い予感	2 2 6	5 3	早朝に青島へ	2 3 4

ガイド本によると、「沈陽故宮」は1625年、女真族国家の「後金」が遼陽から瀋陽へ遷都した際に造られた王宮で、清朝の祖ヌルハチと二代ホンタイジが1636年に完成したとある。その後1644年、第三代順治帝が北京に移るまでの皇居だったことになる。



6万平方
mの広さに
20の庭園
90の建物
では、とて
も全部は歩
けないので、
すぐ正面の
崇政殿に向
かった。
「崇政殿」
の縦文字の
左には多分

女真文字が併記されており、両文化の癒合が感じられる。建物はやや古い感じはするが、当時の皇帝の威厳を保つためだろう、詔勅を出す玉座だけが強調されている。

その前の双竜が昇る門構えの柱にはどういう意味か「慎乃儉徳式勿替有歴年」と書かれていた。

周りのどこにも会議室のような部屋がないのが可笑しいというか、命令のみで事を決める体制の衰れを感じる。

妃の寝所・生活の建物も、真ん中に石畳の間と回りにベツドや部屋があるだけで、洗面やトイレはどうしたのか訝しい。そんなことを思いつつ、中庭の端の石に腰掛けで、焼き芋の昼食にしつつ、シバシバの休息を取った。東側の広場の北にある「大政殿」は、法隆寺の夢殿を

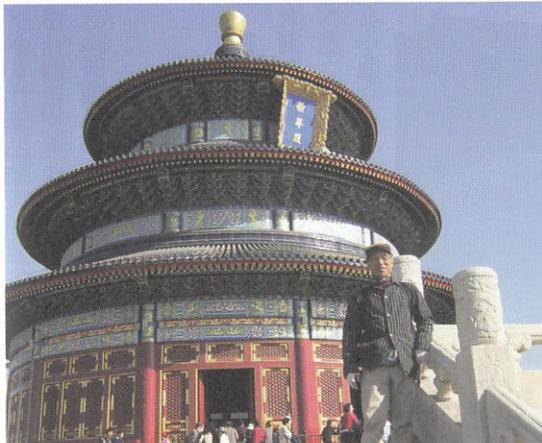


思わせる六角形の外觀だが、柱には竜が巻きつき、中はやはり玉座が埃を被っていた。丁度神奈川から、仕事でコチラに来たという若い男性が、コチラのガイドの若者に説明を受けており、しばらく私も一緒に聞いた。【封建の長き時代を中国も 庶民汗して宮殿残す】

14 2元のところを20元出せ

故宮を外に出て、次は「張氏帥(すい)府」に行こうと広通りを歩いていると、中年男の三輪人力車が来て、「そこまでは歩くのは遠い」という。

幾らかと尋ねると、



あるから、「天壇」と言えばここを指すという訳。全体としては273万平方mという莫大な広さで、北京旧城部の三分の一を占める、とガイド本にはある。

「祈念殿」の周りには8つの石段があり、東西南北の石段中央には、白大理石に竜と鳳凰が浮き彫りされている。訪れている人たちは、その素晴らしさに満足してか、皆楽しそうだ。天気もいいし。

丁度ドイツからの年配夫婦が、ニコン一眼レフで写真を撮っていたので、二人を撮ってあげて、私も天壇をバックに撮って貰った。

「祈念殿」の三層の直径50mの琉璃瓦の屋根は、28本の木柱だけで支えられているそうだが、ここまでは数えられない。中を覗くと、その赤や金の刺繍をした太い柱が見上げられ、「皇天上帝」と書かれた祭壇がある。

ここで五百年間、各皇帝が年に何度ずつ、豊

年や新年の祈願をしたかが、西の資料館に表示されていた。後で「祈念殿」をぐるっと歩いて数えたら115歩あった。

再び西門を出て、南へ歩いたが、何様広く、一つ見るのにバス停一つは歩かなくてはならないから、半病人にはしんどい。ま、これで半分以上の価値はあったと、ベンチで一休みして、朝買ったパンとヨーグルトの昼食にした。すぐ前で、2本の木の幹にネットを張ってバドミントンをしたのだろう、ラケットが置いてある。

さて、今日はここで切り上げよう、あとの2つは次回の楽しみだと、永定門内大街の西門を目指した。その前の中門までの石畳の両側には、ここも槐の木が繁り、うれしい緑の屋根をなしている。

右には季節には未だしのバラ園が、垣間見える。また中門からは道沿い内側にヒメヒノキが植えてあった。

ここを歩いていると、昨年の初冬に歩いた東京の明治神宮を思い出す。大都會の真ん中の無料の緑の散歩道だ。ここ「天壇」もこの部分だけでも市民に無料開放が安くして、もつとこの良さを味わってもらうべきと思うが…。

【良き秋に今天壇に立つ我等

互いの笑顔平和しみじみ】

39 天安門広場 ひろく

西門前からバスで、そのまま北へ1、5km行けば、天安門広場の南の「前門(チエンメン)」バス停だ。そこで

降りると、東西に走る広い前門東・西大街の道路があり、その向こう正面には「正陽門」というデカイ三層の楼門が立ちハダカツテいる。これが「前門」の正体だ。



南前の道路の下には東西に地下鉄が走っている。そこで天安門広場に行くには、石段を下りて「地下鉄前門駅」への地下道を通って、北へそのまま上り「正陽門」の東横に出ることになる。

「正陽門」はこれも1420年に造られた明清時代の内城の高さ、高さが40mあり、北に見える天安門より7m高いという巨大城門。中国人大きい好きね。200元で上れるが、今回はエネルギーを節約した。

今日は月曜日だからか、少ない方だろうが、それでも観光客と年金客がそれなりに多い。

広場の50m北には、1977年、毛沢東の死の翌年建てられたという立派な「毛主席記念堂」がデンと12本の円柱、オレンジの二階建て屋根で、北遥か向こうの天安門を遮っている。

周囲には低い柵が張られ、入口左右に離れて二基、革命戦士か労働者群像が勇ましくこちらに突き進む様を表している。入館は無料とあるが、どうもここから入れそうに無いので、



左に回ったら、中程に兵士詰め所があり、案内板に「本日午後は休み」となっている。

仕方ない、と北門へ回ったら、それなりの人が柵の各鎖に腰掛けて、話したり時を過ごしている。更に北の天安門まで百mはあり、5万人入るといふこの広場に、ベンチが

一つも置いてないのだ。これもどうかと思う事だった。ま、遙々来た音に聞く40万m²の「天安門広場」だが、ここも明清時代は皇帝の即位式や科挙最終試験（ここをどの様に？ガイド本のミスかも）の場所で、庶民は覗く

山東省の田舎の二か村からで、一人は閻さんと言って、中国の日本語テキストを持って勉強していた。また日中辞書を持っている娘もいた。

閻さんにはハルピンへの車中で貰ったトランプで、中国での遊び方を習った。「ハート5」とでも名付けるゲームで、二人以上にカードを全部配り、ハートの5を持っている人が親となって始める。



親は5を1く複数枚出して、左周りに次の人が同じ数字のカードを親が出した枚数以上出すか、一枚なら2を最強、3を最弱として親が移る。これに同柄の連番も競つてもいい。こうして早くカードが無くなった者が勝ちだ。代わりに私もセブンブリッジを教えた。トラ

ンプはこれからの日本での遊び用にと、閻さんにあげた。もう一人、久留米から山東省の威海の食器メーカーに出港しているというOさんがいた。殆どを威海に居て、たまに久留米に帰省するとの話だった。

十月二十八日(土)晴。朝、いよいよ下関に着くというので、皆で記念写真を撮った。後で私から皆に送った。

8人の娘たちには八代市からバスが迎えに来ていた。係の人と挨拶して、名刺を貰った。すでに六十人ほどが来ているという。

入港税関審査は厳しくて、ウエストポーチの中まで詳しく調べられた。別に怪しいものは無いので、かまわないうが、係も感じの良い女性だった。

張さんはバスで安く東京へ帰ると言って別れた。小永さんとは福岡の天神バスセンターで別れた。

バス停には家内が迎えに来てくれていて、十八日振りに何も変わらない、新聞と手紙が溜まった我が家に無事着いた。

【空海の苦難の旅を思いつつ 我も戻れり秋の黄海】

57 旅を終えて

出かける前は不安もあり、旅行中は家内に心配も掛けるが、無事帰つてこうして旅行記も書けば、目的を果たし終えた気分、行って良かったと思う。

中国は歴史が古い上に日本との関係が深い隣国なのに、中国語の壁と日中関係の不安定さのために、まだ個人や